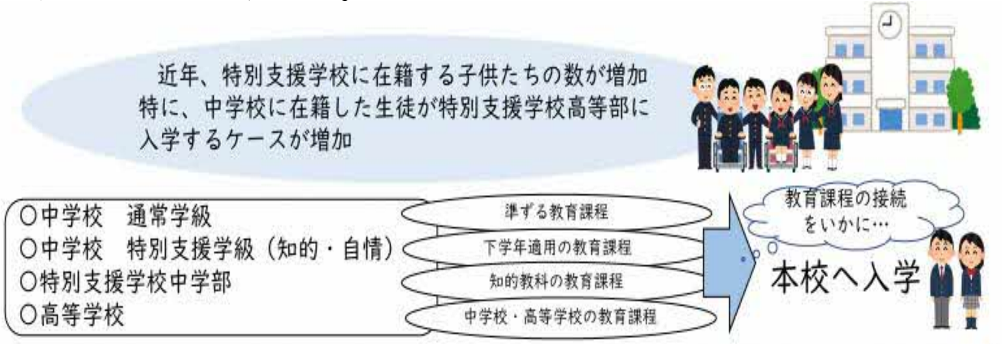
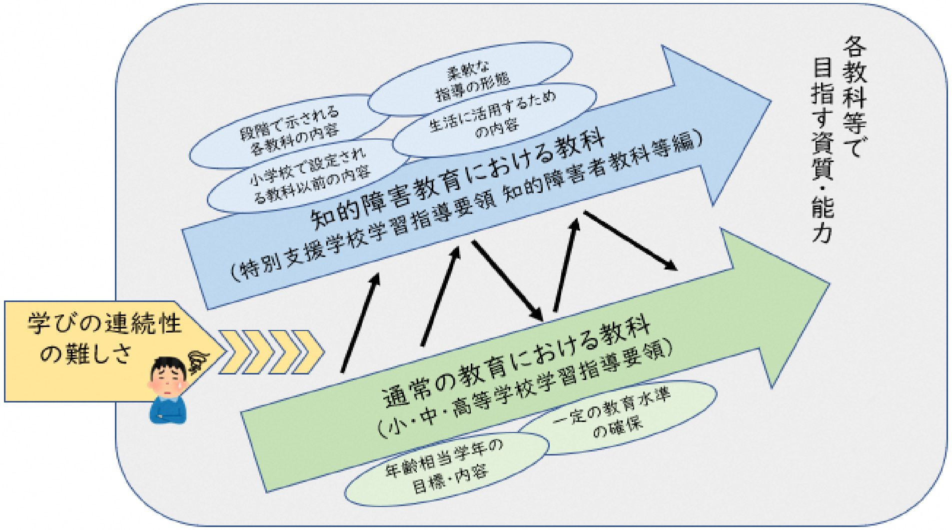
教科の目標・内容と「学びの連続性」を踏まえた知的障害特別支援学校における効果的な指導
～“つながる”学び、“つながる”教育課程 の実現を目指して～

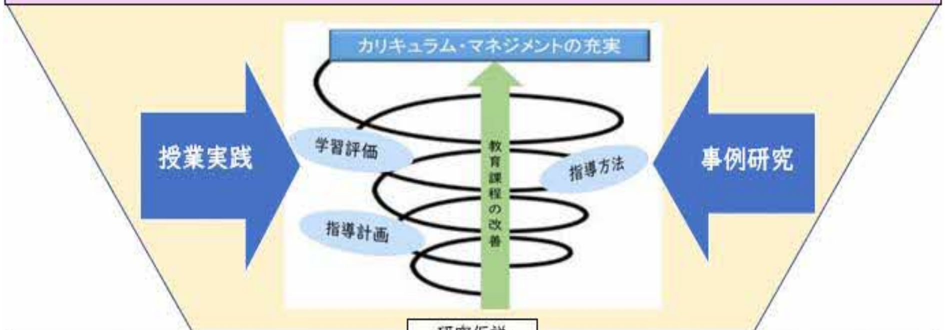
　中央教育審議会初等中等教育分科会の「特別支援教育部会における審議の取りまとめ」（H28．8）で、「学校種別にかかわらず、各教科の目標・内容を一本化する可能性」の検討が求められました。この小学校、中学校又は高等学校と特別支援学校との間の学びの連続性の確保の観点を踏まえ、本研究では特別支援学校（知的障害）において、小学校等における各教科等を基にした教育課程の編成や、指導方法及び学習評価の在り方について研究します。具体的には、高等部「数学」において小学校の検定済教科書を活用し、生徒の実態等に応じた教材を使用した授業実践を重ね、観点別学習状況の評価により学びの深まりを探ります。



障害のある子供の教育的ニーズの変化に応じ、学びの場を変えられるよう、多様な学びの場の間で教育課程が円滑に接続することによる**学びの連続性**の実現
「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」（令和３年１月）



研究目的
知的障害の状況や発達段階等を考慮して小学校等の学習指導要領を適用する可能性を検討することで、共生社会の一員として生きていくための力を育成する教育課程の充実を目指す。



研究仮説
小学校等の教科の内容を踏まえた目標達成を目指し、検定済教科書を効果的に活用しながら指導方法及び学習評価を工夫することによって自立と社会参加に向けた教育課程が編成でき、小・中・高等学校と特別支援学校との学びの連続性が確保できるのではないか。

『心』清く　『道』正しく　『生』逞しく

本校の教育目標
生徒一人一人の能力・特性に応じたきめ細かな指導に配慮しながら、生徒の自律的、主体的な態度を尊重し、**社会自立・職業自立**のための教育を行う。

考える力、自信を高める生徒

小学校学習指導要領の算数科の目標にある数学的に考える資質・能力の育成

①数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動
②年間指導計画
（教科書の活用・教科としての系統性・指導内容の重点化）
③個に応じた評価規準
④教科等横断的な学び
⑤認知特性に応じた支援

充実した学び